規範意識を高める学校・家庭・地域の相互連携の在り方に関する研究 報告書

# 地域とかかわり思いやりの心や公共心を高める子供の育成

# ~地域の人・もの・自然に学ぶ総合的な学習、生活科の授業を通して~

豊橋市立岩西小学校 稲田 あけみ

#### 1 はじめに

岩西校区には、多くの団地や育成園、ゆたか学園などの福祉施設、学校に隣接している豊橋養護学校がある。また、ブラジルから日本に来たばかりの外国の子供たちがたくさん住んでいる地域でもある。そういう中で、様々な境遇の子供たちが出会い仲間づくりをするうちに、人なつっこい寛容な人間性が培われつつある。しかしその反面、相手の気持ちを深く考えない軽率な言葉を使ったり、みんなのものを大切にできなかったりするところも見られる。「『ばかやろう』『ふざけんなよ』など、悪い言葉を使いますか」というアンケート(子供用)項目に対して資料1のように33%の子供が「よく・

たまに使う」という否定的な回答をしている。また、地域としてのつながりが希薄で同じ通学班の子供の名前を知らない保護者さえいる。「子供会行事や地域行事、スポーツクラブなどに参加しますか」というアンケート(子供用)に対して**資料2**のように28%の子供が「全然しない」と回答している。校区の運動会に参加しない町内もあるほど

子供会行事や地域行事、スポーツクラブ である。 などに参加しますか 田、、、

資料 2

全然しない
28% よくする
37%

ちらかとい
えばしない14%

どちらかといえ
ばする 21%

思いやりの心や公共心は,学校生活,家庭生活,地域社会等,子供を

取り巻くあらゆる社会環境によってはぐくまれ、また、その中で規 範意識は醸成されるものであると考えている。

本校は、本年度から3年間、市から地域連携の研究委嘱を受けたこともあり、子供たちが地域の人・もの・自然に学ぶ学習をすることで、地域の方や保護者の方々の「地域で子供を育てる」という意

識が高まってくることを期待している。また、地域に愛着をもてる子供を育てたいと思う。子供たちが、地域に出て活動や体験をし、授業の中で話合いを繰り返すことで、様々な立場の人たちと共に生きることの大切さを理解するであろう。それは自然に思いやりや公共心を高めることにつながると考える。そして、子供たちの学びが家庭や地域に広がり、学校と家庭・地域の連携が深まっていくことを期待する。

#### 2 研究の目的

- ・思いやりの心や公共心を高めるための総合的な学習の時間・生活科の在り方をさぐる。
- ・子供たちが地域へ出掛けることで、地域の方や保護者の方々の地域への愛情を高め、子供と共に校区の規範 意識の向上を期待する。

本研究では、地域への愛着が比較的薄い子供たちが、地域のもの・自然にふれたり、地域の方々から学んだりする総合的な学習の時間、生活科の学習をすることにより規範意識が高まることを期待する。単元構想には、道徳や社会科、特別活動を関連させることにする。思いやりの心や公共心を育てるために、どのような手だてが有効なのかを明らかにするのが本研究のねらいである。

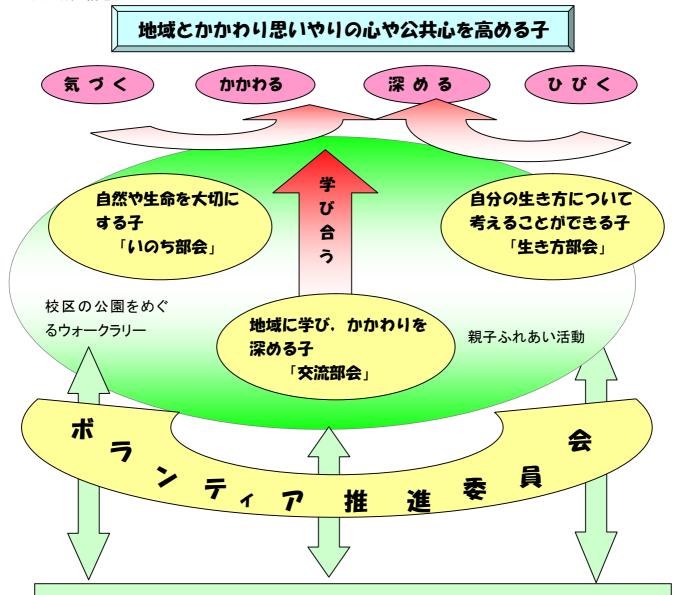
悪い言葉を使いますか

#### 3 研究の方法

本校は総合的な学習と生活科を軸にした教育活動を行うことで規範意識(思いやりの心や公共心)を高めようとした。そのために、いのち部会、交流部会、生き方部会の3部会を立ち上げ、それぞれの仮説に基づき手だてを講じる。その手だてを検証する立場で実践を行っていく。研究前の子供の規範意識、親の規範意識が、研究を通して向上してくるかどうか、アンケートの数値や振り返りカードの言葉から検証する。

子供は社会の中で育てられているのだから、地域の人やもの・自然と子供たちがかかわる場づくりをしたり、親子で活動する場を設定したりして規範意識を育てようと計画した。

# (1) 研究構想図



# 地域の人・もの・自然(学校と家庭・地域との連携)

## (2) 研究の仮説

子供たちが地域の人・もの・自然と進んでかかわり、いのち、交流、生き方の3つの要素を 重視した単元の展開を工夫することで、思いやりの心や公共心が高まるであろう。

#### (3) 研究の視点と手だて

前頁の目指す子供像に近づくためには、単元の中に3つの要素が大切であると感じた。そこで、 以下の視点と手だてを考え、仮説を検証することにした。

# 思いやりの心や公共心を高めるための3つの要素



自然・生命の尊さや人の愛情に 気付いたり,実感したりするた めの時間を作ることで,自然や 生命を大切にする子が育つで あろう。



地域の人々とかかわること で、地域に学び、かかわりを 深める子になるだろう。



地域のことを調べ、話す・ 聞く・伝え合う活動を行う ことで自分の生き方につい て考えることができる子に なるだろう。



- ①体験活動の時間を多く設定
  - ・同じ公園に春・秋・冬と季節 ごとに何回も行く。
  - ・火おこし体験や国際体験(食 べ物や慣習を知る)をする。
- ②道徳や社会科との関連を図る。

目的意識をもって何度もか かわる。

(広く浅いかかわりから 狭く深いかかわりへ)

ビューをする機会を増や す。

① 外国の方に何度もインタ

② 見付けた秋を保育園の子 に紹介する機会を設ける

どの単元においても

気付く・かかわる・深める・ひびく のサイクルで展開をする。

#### 【実践前の子供たち】

今年度は、本校の1年生と6年生の児童を研究対象として本研究を 進めた。1年生の児童は入学して間もないうちからとても活動的で好 奇心旺盛であった。縦割り活動で6年生のお兄さん、お姉さんと元気 よく遊んでいる姿をよく見かけた。遊ぶことは大好きな1年生だが、

話す・聞く・伝え合う活動 の充実

- ①活動や体験を充実させ ることで,自分の考えを もたせる。(ワークシートのエ
- ②個の考えに揺さぶりと 葛藤を与える話合いに するために教師の発問 を工夫する。
- ③学習成果を伝えるため にポスターセッション を設定したり、お知らせ を回覧板で知らせたり する。

自然に触れ合って遊ぶ機会は少なく、行動範囲が狭いことから、自分の近くの公園は知っていても校

# 校区の公園を知っていましたか?

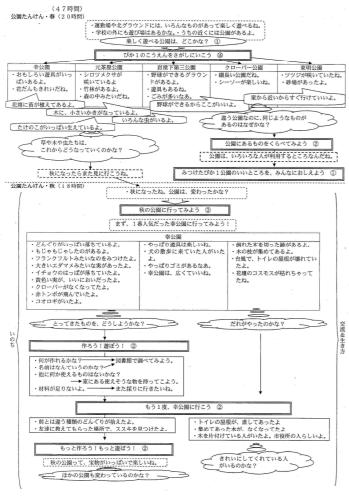
幸公園・・・・・92% 元茶屋公園・・・16% 岩屋下第三公園・・52% クローバー公園・・45% 東明公園・・・・12%

区の中の他の公園がどうなっているかなど、資料3のように知らない まま生活している子が多くいる。6年生は外国籍の児童の割合、育成 園の児童の割合が最も高く、様々な環境の子供たちと学習したり運動 したりしている。そのため、外国籍の児童などに対して避けたり、変 な目で見たりする児童は少ない。しかし、地域の外国人に対する子供 たちのイメージは資料4のように「夜、うるさそうにしている」「うる

さいし、悪いことをやりそう」「見た目 はこわそう」など、自分とは同じ立場 の存在だと思っていないことが分かる。

校区に住んでいる外国の人にとんなイメージをもっていますか なんか岩西小学校にいるタト国の友達 だけど、大人の人とかが夜うるさそうだしているイメー どがあると思いまあまとどこかにらく書きとかそうい うのをしてそうなイナーシャも、かしなります。

# (4) 単元構想図



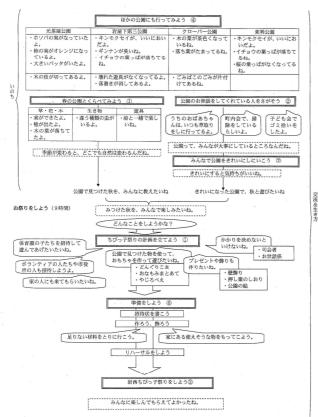




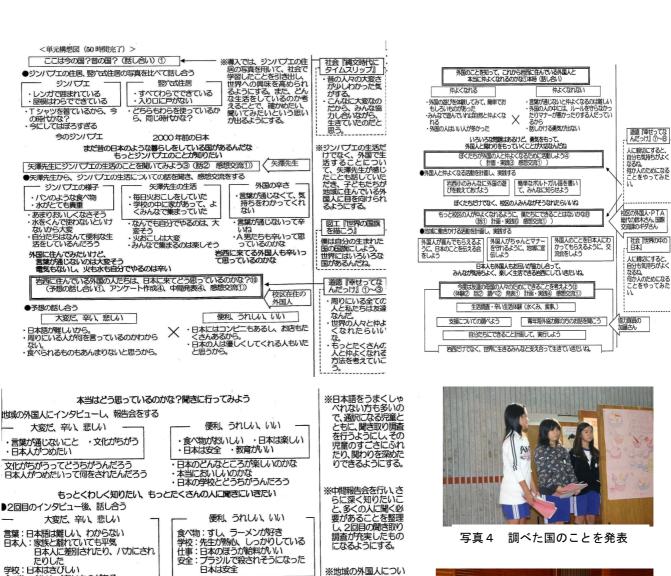
写真1 実ができているよ



写真2 公園の枯れた木を集めてくれてるよ



写真3 セミ 見つけた



食べ物: おいしくないものがある 野菜、魚、納豆

差別がなくなるようにしたい 日本人ももっと家族思いになったほうかいい 日本人と外国人が仲よくなれるようにしたい

日本人と外国人が 仲よくなっていけたらいいな

食べ物:すし、ラーメンが好き 学校:先生が熱心、しっかりしている 仕事:日本のほうか給料がいい 安全:ブラジルで殺されそうになった 日本は安全 日本は安全

- 日本の食べ物の方がおいしいのか確か めたい 外国の学校はどんな学校なのかな ブラシルは治安が悪いのかな
- ラジルは治安が悪いのかな

知らないことばかりだったから、もっと外国のことを知ろう

もっと外国のことがわかったら、みんな仲よくなれるんじゃないかな

岩西の外国人が住んでいた国では、どんな生活をしていただろう① (調べ③、発表2、感想交流①)

●国ごとに分かれて調べ学習をし、感想交流をする

・カーニ/ いという派手な祭りがある・フェイジョアーダという豆を使った料理がある

プラジル料理をつくってみたい お祭りの踊りを踊ってみたい

ブラジル料理、カポエイラ体験 ・豆の料理もおいしかった ・踊りは激しくて、とても楽しかった

11/2

貧いい人がとても多い お米が主食で、日本と似た料理が ある

フィリピン

あまり豊かな国ではないから、日本に 働きに来ているのかな

フィリピン料理、バンプーダンス体験

日本の料理にもありそうな味だなフィリピンは日本から近いからかな

・中国の料理は日本でもよく食べられるものが多い・卓球やボーリングとか

中国

馬の骨をつかった楽器がある日本に出稼ぎに来ている人が多い は日本でもやっている ・中国は日本と似たところが

A 男のお父さんに頼んで音を聞かせてもらおうおもしろい形の楽器がたく ・中国は日本にかっているスポーツ ・日本でやっているスポーツ 緒だな

ペルー楽器演奏体験 リコーダーと似ているけど、ちょっと違う感じかする

中華料理体験 いつも食べているものと違

うな・日本人の好みにあった味に

日本 ・日本の伝統的なスポーツに相撲がある・日本人が差別するのは、外国人のマナーが悪い

外国籍児童の

保護者中心

から

・相撲をはじめてやってみた けど、とても楽しかった ・日本人もっと変わっていか ないといけない

茶道体験 抹茶はとても苦かった 正座をずっと続けるのはとても大変

日本と外国の違いはいろいろな所であるんだな。 こんなに違うから、大変に思ったり、いいなと思ったりすることがあるんだね。

※地域の外国人について感じたことを交流 で、今までもっていた 外国人に対するイメ ージが変わってきた ことに気づくことが できるようにする。

道徳『幸せってな んだっけ』④~⑥・

みんなのことを考

がんなのことを考る えて、分けたことなっただね。 他の誰かのために 与え続けること 幸せなんだ。幸せなんだ。 大はなんな幸せのる。 大きなになったかに

ために生きているんだね。

※調べる際には、本やイ ンターネットだけで なく、間き取り調査も 交え、より生きだ情報 に触れられるように する。

※外国についての知識 だけでなく、そこで暮 らしている人々の様 子を写真や肿゚ゆなど らしている人々の様子を写真や映像などから考えるように声をかけ、生活の様子についても目を向けることができるように



写直5 茶道体験 (日本)



写真 6 少林拳(中国)

#### 4 研究の内容(研究実践)

## (1) 1年 生活科 『こうえんへいこう』

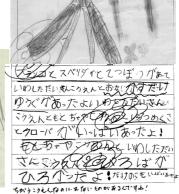
① 気付く段階 〔手だて:いのち①, 生き方①〕

子供たちに「楽しく遊べる公園はどこ?」と問い掛けると、「クローバー公園」「東明公園」など自分の家の近くの公園の名前を答える子供がほとんどであった。校区にはもっと楽しく遊べる公園があることを知らせたいと考えた。そこで、「みんなでぴか1の公園をさがしに出掛けよう」と、校区にあ

る公園へ出掛けることにした。子供の考えを深めていくための支援として 公園で見付けたものを**資料5**のようなワークシートにかかせるようにした。 自分が思っていることも言葉で書くようにさせた。 **資料5** 見付けたもの

② かかわる段階 〔手だて:生き方②〕 個々の気付きを共有するため、それぞれの公園 にあるものを出し合う授業を行った。その中で違う公園なのに同じようなものがあることに子供たちは気付き、「どうしてかな?」と疑問をもった。

③ 深める段階 〔手だて:生き方②〕



ちかうこうもんねのにあるしもか

子供たちの考えを深めるため、「違う公園なのに同じようなものがある。

ほんとうかな?」と問い掛けた。その問いに対して資料6のようなワークシートを使って確かめた。

資料6 同じようなものに気付く



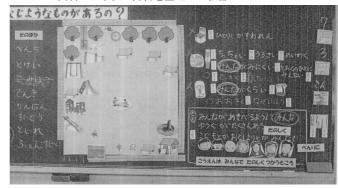
そうすると、同じようなものがあることに、ほとんどの子供が気付いた。 そこで、「みんないろいろ言ってくれたけど、べつになくてもいいじゃん」 と何もない公園の絵を提示してみた。すると、「遊具はいります。楽しいか ら」「時計もいります。時間が見れんもん」「トイレもいります」「ベンチも いります。おじいさんやおばあさんがすわれるように」など公園にある公 共物が必要であることを子供たちは次々と発表していった。(資料7) そし

て, さらに子供の考 えを揺さぶるために, 時計という発表に対

し、目覚まし時計の絵をはったり、電気という 発表に対し、懐中電灯をはったりすると「みん なが見えない。時計は大きい時計でないといけ ない」など、だれのためにあるのかを考えはじ めた。そこで、「みんなってだれ?」と聞くと、

**資料7**のように「小さい子のために」とか「お

資料7 子供の発言を整理した板書



年寄りのために」などと公園は、いろいろな人が利用することに改めて気付いた。

# ④ ひびく段階 [手だて:いのち①, 生き方①, ②]

「みつけたぴか1の公園のいいところをみんなに教えよう」という授業を行った。子供たちは、自分で遊んだ公園であるので、ワークシートを基に、自信をもって自分の「ぴか1の公園」を発表することができた。そして、運動場の遊具で遊ぶときには、順番を守って遊具を使用したり、ぞうきんの整頓を進んでしたりする子供の姿が見られるようになった。資料8の「よいことポイントカード」にあるように生活に生きてきたことが分かる。

資料8 ポイントカード



#### ⑤ かかわる段階Ⅱ

[手だて:いのち①, 生き方①]

秋には、春に行った公園に、 時間を置いてもう1度出掛けることで、 「たけのこがなくなってるよ」「クローバーは咲いてないけど、どんぐ りがいっぱいあったよ」など、春の体験と比べて自然の変化を実感する ことができた。(資料9) たっぷり探検の時間をとることで、子供たちは 持って行ったバッグがいっぱいになるまで木の実や葉っぱを拾い、公 園のすみずみまでしっかり探検し、変化した自然のすばらしさ、いのち の不思議さを感じ取ることができた。(写真7)



写真7「こんなにたくさんとったよ」

⑥ 深める段階Ⅱ[手だて:いのち①, 交流②]

公園で採集した実や葉などを使っ

て,子供たちは、おもちゃや飾り物などを作った。材料が足りな くなると、授業後に公園へ採集に出掛ける子もみられるようになっ た。「日曜日にお父さんと行ったら、幸公園にまつぼっくりがいっ ぱいあったよ」といって見せに来たり、「どんぐりにもいろいろ種 類があるんだよ」と言って本で調べて来たりする子もでてきて、

自然の物に対する関心の高まりがみられるようになった。

自由に作品作りを楽しむ時間を十分確保することで、採集してきた植物の特徴や不思議さに気付き、 もっと欲しい、もっと作りたい、もっと遊びたいという思いが高まり、自然への愛着を増していくこ とができた。

公園探検を進めていくうちに、「台風で倒れた木を片付けたのはだれ だろう?」「春の花とは違う花が植えてあるよ」と公園にかかわってい る人にも目を向けるようになった。公園の世話をしてくれる人,公園 を利用する人に話を聞くことにより、さらに公園に対する思いが膨ら んできた。(写真8)



資料9 自然の変化に気付く

公園探検に満足した子供たちは、その楽しさをみんなに知らせ、— いるおじさんにインタビュー〉 緒に楽しむ活動をしようと考えた。毎年招待している岩西保育園児の他に家の人や、インタビューや 探検に協力してくれた人を招待することで、地域の人との交流を深めたいと考えた。

しかし、今年は、新型インフルエンザの影響で、行事が中止となってしまったため、学級、学年の

みで開催した。(写真9)

して作り、自分たちも楽しんだ。

子供たちは、公園で秋を十分満喫したためか、どんぐ りやまつぼっくりなどを使い、お店やゲームなどを工夫

十分活動し、満足した子供たちは次の活動への意欲を



写真9 つかみ取りの様子

⑦ ひびく段階Ⅱ

[手だて:いのち①, ②]

子供たちは、公園探検をするたびに自然物や公共物についての発見を する一方、「花火が落ちていたよ」「トイレに落書きがしてあるよ」など、 心無い人たちが残したものにも気付くことが多かった。そこで、生活科 の学習の中での気付きをさらに高めるために、道徳「かわそうじ」の学



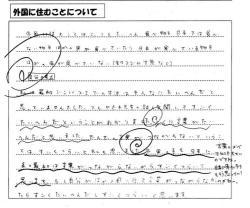
写真 10 校外学習でのごみ拾い

習を行った。子供たちは、教材に出てくる川を自分たちが探検している公園と重ね合わせて考え、きれいにしたいという気持ちを強くしていくことができた。どんぐり拾いをした後のごみ拾いでは、どの子も真剣にゴミを探していた。(**写真 10**)

#### (2) 6年 総合的な学習 『共に生きよう みんなの世界』

①気付く段階 〔手だて:いのち①, 生き方①, ②〕

資料10 外国で生活する大変さに気付く



子供たちの地域に暮らす外国人への興味を高めるために、外国で生活した経験のある6年1組の矢澤先生から外国で生活することについて話をしてもらった。この話の後の子供たちの感想は資料10のように異なる文化の中で生活することは大変であるという思いをもった。そして、自分たちの周りにいる外国籍の子供たちも同じような思いをもっているのだろうかと、関心をもつことができた。そこで、「岩西に住んでいる外国の人たちは、日本に来てどう思っているのかな」という話合いの授業を行った。

「日本語が難しいから大変だ」や「食べられるものがあまり

②かかわる段階 〔手だて:交流①, 生き方①, ②〕



多くの外国人の考えを集められるように街頭アンケートを行った。アンケートについては、 日本語では答えられないので、 あらかじめ子供たちの知りたいことを通訳の先生に訳していた

だいた。また、通訳できる子供と共に聞き取り調査を行う

みんなの意見を聞いてみているいろな意見がでれま 柳がとりにびっくりしたことは ブラジルは ということです。 参狭 か うじのは すごく さみしいし れる人がいけないと思うので へんだと思いまして、 ほかにも教育のちかい という意見がでて外国の人と日本の人では どんならかいがあるのかなあてと思いましてこ はやくしりたいです。でもどこにいるかな まだかからない人 もいるのではやくか 学ものみんなで相談し かるようにしたいです どうゆう方法がいい のか、考えよう!

ようにし、その子供のすごさに触れたり、かかわりを深めたりできるようにした。(写真 11) 見ず知らずの外国人にアンケートをするということで、子供たちの中にはとまどいを感じた子が多くいた。しかし、インタビューをしたことの報告会では、「日本は安全」「日本の教育がいい」「日本人が冷たい」など、様々な報告が挙げられ、意外な結果に驚き、「もっと詳しく知りたい、もっとたくさんの人に聞きたい」と思うようになり、2度目のインタビューへ出かけた。(資料 11) 2度目のインタビュー後の話合いから、「日本人ももっと家族思いになったほうがいい」「日本人と外国人が仲よくなれるようにしたい」「ブラジルは治安が悪いのかな」「外国の学校はどんな学校なのかな」など、『知らないことばかりだったから、もっと外国のことを知ろう』『日本人と外国人が仲よくなっていけたらいいな』と考えるようになった。

③深める段階 〔手だて:いのち,①,②,交流①,生き方①,②]

外国の文化についての調べ学習を行う際にも、聞き取り調査を取り入れた。本やインターネットで 得た知識だけではなく、生の声を聞けるようにアンケート用紙を持って出掛けるようにした。聞き取 り調査を進めていく中で、実際に外国の文化を体験してみたいという意見が多く出された。そこで、 外国籍児童の保護者を外国文化の講師として招き、体験活動の時間をとった。

ブラジル・・・フェイジョアーダ (豆料理) を作って食べてみる。 カポエイラ体験

フィリピン・バンブーダンス体験

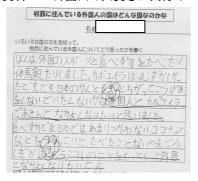
フィリピン料理 (ハロハロ)を作って食べてみる。

ペルー・・ペルー楽器演奏体験

中国・・・・杏仁豆腐を作って食べてみる。

日本・・・茶道体験

#### 資料 12 外国人の大変さに気付く



体験活動の後,外国の文化につ

いて、調べたことや体験したこと、感じたことを伝える場として、ポスターセッションを行った。その時の子供たちの感想は、日本と外国の違いは一言で言えないぐらい、いろいろなところであるということであった。そして、こんなに違うからこそ、大変に思ったり、いいなと思ったりすることを実感していった。

『道徳を中心とした他教科との関連』

総合的な学習の時間で感じた思いをさらに高め、共に生きていこうと

する気持ち、思いやりの気持ちを高めるために、道徳「幸せってなんだっけ」を総合主題として8時

間設定し、効果的に関連させた。多くの子は、人にしてもらう幸せは感じているが、分かり合える幸せや自分が役立つ幸せには気付いていない。総合的な学習の時間における活動と道徳の時間の学習をかかわらせながら扱っていくことで、お互いのよさや違いを認め合い、共に生きていくことが幸せにつながるのだという心情を高めていけるはずである。そこで、「3つの幸せ」の道徳の授業を取り入れた。子供たちは、たくさんの幸せがあることや幸せの価値観は人それぞれ違うのだということに気付

# 資料 14 授業記録「これからみんなは岩西に住ん でいる外国人と本当に仲良くなれるかな?」

- C1: <u>仲よくなれる。</u>文化の違いとか見た目で差別がある。文化の違いは当たり前。<u>違いを認め合わないと差</u>別は続く。
- C2:今のままでは<u>仲よくできない。</u>一人が思いやる気持ちをもっていてもできない。大人になったら岩西校区は外国人が気持ちよくすごせるすばらしい校区になってほしい。

<中略>

C3:悪口とか言う人をなくすためには、<u>外国人へ</u> の自分たちの思いを変えていくべき。

<中略>

- C4:大人はこわいから話しかけられない。
- C5:見た目もこわくて行動があぶない。
- C2: こわいって言ったけど、アンケートのとき、こわそうな人がいたけど、とっても優しかったので、積極的にチャレンジしていくことが大切。
- C3:アンケートのとき優しかった。<u>チャレンジ精</u>神で優しく接していけばいい。
- C6:まず1歩が大事。
- C1: 仲よくしていくべき。こわい人だけ差別している。 <u>話していけば仲よくなれる。</u>
- C7:ベルリンの壁のようにこわしていくべき。マ テウス君みたいに声をかけていくべき。

いた。資料13は、 授業後の子供の感 想である。その気 付いた幸せの価値 観を総合的な学習 の活動の中で確か

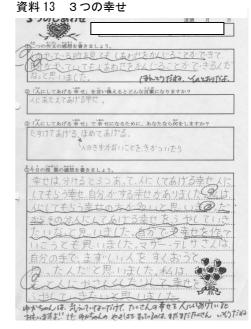


写真 12 カポエイラ体験

に実感している。また、外国についての調べ学習の段階では幸せ感について考える授業をし、友達と意見交換をする中で、お金や物が豊かであることが幸せではなく、 家族がいたり、毎日を一生懸命生きたりすることも幸せであることに気付くことができた。

④ひびく段階 〔手だて:いのち②,生き方①,②〕 これまでの活動を通して、日本人と外国人の間には、 考え方や文化など、多くの違いがあることを実感し、そ れらを踏まえた上で、もっと仲よくしていきたいという 思いをもった。また、日本人の外国人に対しての差別な ど、仲よくしていく上で様々な問題があることにも気付き始めていた。そこで、「これから岩西に住んでいる外国人と本当に仲よくなれるのかな」という課題で話合いの授業を行った。資料 14 は、そのときの授業記録である。C1のように「仲よくなれる」という意見がほとんどであったが、C4の「大人の外国人には話しかけられない」という発言から、子供たちは、本音で語るようになっていった。C2のように「積極的にチャレンジしていくことが大切」という発言があった。その発言から、仲よくなっていくには、話し掛けたり、挨拶するなど、まずかかわっていくことが大切であることの共通理解が生まれた。そして、授業日記には、資料 15 のように「自分たちがまず変わって、行動しようということが大切だと思った」「自分自身が変わらなきゃいけない」と書かれていた。

⑤ ひびく段階 II 〔手だて:交流①,生き方①〕 この話合いの後,もっと校区の人が仲良くなれるように、自分たちにできることを考えていくことにした。地域ボランティアコーディネーターの鈴木豊さんから、岩屋住宅(団地)の落書き消しを外国人たちがやってくれている話を聞いたり、国際交流協会ギダさんから人権の話を聞いたり、青年海外協力隊の深谷さんから海外で暮らすことについての話を

資料 15 授業日記

# 授業日記をかこう

私は、この話しあいで、一般たちが変わって行動しまうということか、大工力だと思いました。外国の人と仲良くできるように、差別を無くしたいです。外見からかい人でもチャレンジして仲良くなれるようにしたいです。

聞いたりして、自分たちにできる活動を考えていくことにした。

子供たちが考えたことは、<u>外国の言葉であいさつをしよう</u>、<u>今まで勉強したことを伝えよう</u>、<u>外国の遊びを全校のみんなで遊ぼう</u>、<u>外国の人にカードを送ろう</u>、という4つのことであった。自分たちの思いを届けるにはどうしたらよいのか、各グループで話合いを繰り返し、実践することができた。外国の言葉であいさつしようと考えたグループでは、ポスターやびらを作って、他学年の子や地域の方に配っ



写真 13 外国の遊びを低学年といっしょにやってみる

て伝えようと考えた。また、校舎内をあいさつしながら歩いて回り、直接他学年の子に教えにいった。 さらに、毎月行われているあいさつ運動とも関連させ、月曜日は英語で、火曜日はポルトガル語で、 と外国の言葉であいさつ運動を行った。外国の人と気軽にあいさつをして仲良くなってほしいという 思いから、劇の作成にも取り組み、こういったことから仲良くなってほしいという思いを伝えること ができた。このようにして、自分たちの思いを伝えようと様々な方法を考えて実践することができた。 これらの活動に取り組み、今まで地域の方から学んだことを今度は自分たちの思いにして地域にかえ すことができたのである。

#### 【考察】

本単元を通して、何度も何度も外国人の方とかかわることで、子供たちは様々なことを考え、出てきた課題を話し合ったり、また、体験したりすることで、考えを深めていった。総合的な学習の時間と道徳をタイムリーに結び付けることで心情を高めるために効果を上げることができた。学級の外国籍の友達とは仲よく生活できるのに、地域に目を向けると、まだまだ壁があり、壁をなくすには、自分からかかわっていかなければならないことを実感できたと思う。思いやりの心が育ったかどうかは簡単には見取ることはできないが、ワークシートの言葉から少しずつではあるが、確実に子供たちの気持ちが育っていると感じる。

いのち,交流,生き方の3つの要素がスパイラル的にかかわり,子供の思考を高めていくことも検証された。

#### 4 研究のまとめと今後の課題

# (1) 自然・生命の尊さに気付いたり、人の愛情を実感したりする時間を多くとることによる変容

地域の自然や人々と十分ふれあうことで、子供たちは、確実に地域への愛着を増していったといえる。学習の前には、「ただ近くにある公園」程度だったものが、何度も出掛け、遊び、採集し、そこを利用している人とかかわる中で、「ぼくたちの岩屋下第3公園」「わたしたちの東明公園」へと変わって行った。「自分たちの公園だからきれいにしたい」という思いが芽生え、「大切にしたい」という気

持ちをもつことができた。体験活動の時間をしっかり とったことは、生命の尊さに気付き、実感するために は有効であったと思われる。

また,6年生では,他文化にふれる体験をすることにより,文化や慣習の違いを実感をもって理解することができた。また,道徳や社会を効果的に組み込んだことで子供の考えをより深めていくことができた。

#### (2) 地域の人々とかかわることによる変容

地域の人々と何度もかかわることにより、その場所、 その人に愛着をもっていくことが**資料 16** より分かる。 また、地域の人の思いや考えに触れる活動を取り入れ ることによって、地域にある問題を自分のこととして とらえ、意欲的に追究活動に取り組むことができるよ

資料16 地域の人とのかかわりで変容
これからみんなは、岩面に住んでいる外国人と
本当に仲よくなれるのかな
名前
この総合の技業がなければ、今でも差別が
悪いを言うなると思います。たいけと、出人なの国
(ち如国)をかり、大変たっきり、不安た、たいける
ことん、かんりました。たので、外国の人と仲良くな
れると思います。自分がその強の立まると表える
と、こてもいやにすると無日かいつらいてもるとん
なに出くなとちがってもありかいの国かかからし、
その方かいあえるしがの国の文化や珍ないで流気した。
「おらかかいあえる」がの国の文化や珍ないで流気した。
「おらかかいあえる」がの国の文化や珍ないで流気した。
「およった」になって、よった。こうやって、人ととて、中にして、
「海巣の配金から、こうやって、人ととて、中にして、
「海巣の配金から、こうやって、人ととて、中にして、
「海巣の配金から、」
「ジャイ」、いんで、たち

うになったと考える。そして、それにかかわる人々との交流を行うことにより、意欲を持続させ自発 的な学びを作り出すことができたのである。さらに、同じ地域の一員として自分はどうあるべきなの か考えることができたり、理想の地域の姿を追い求めて活動したりできるようになるであろう。

# (3) 伝え合う活動をすることによる変容

子供たちの意識から出てきた問題を話し合うことにより、次の課題を見付けることやさらに自分の 生き方について考えることができた。

実践を通して、一人一人の見方や考え方を大切にするとともに、個の考えのずれをとらえ、話合いの場を設けていくことは、子供たちの見方や考え方を広げ、深めていくこととなった。それだけでなく、子供たちが次のステップで生き生きと活動できる原動力にもなりうることが分かった。

子供たちが地域に出て、地域の人・もの・自然に学ぶ生活科や総合的な学習をしていくことで、公 共心や思いやりの心が序々に育っていくことが明らかになった。

#### (4) 今後の課題

研究は本年度を初年度として2年間行う。実践後の子供がどれだけ変わっているのか、今後も検証をきちんとしていきたい。また、単元後には、親子ふれあい活動や校区の公園をめぐるウォークラリーなど、全校の取り組みも組み入れ、より地域との連携を図っていきたい。

3年生の『地震からみんなをまもれ』、4年生の『福祉の町 岩西へ』、5年生の『働くってどういうこと?』の単元でも地域の人・もの・自然と大いに触れ合うことで学習を深めていく。校区に愛着をもてる子供が育っていくよう研究を進めていきたい。